

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890101011
法人名	社会福祉法人 泰斗福祉会
事業所名	グループホーム いたい
所在地	松山市下伊台町1382番1
自己評価作成日	平成 27 年 11 月 16 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 12 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋で2ユニット併設の為、廊下1本で、自由に隣のユニットへ行き来することができ、利用者様同士の交流を深めています。  
伊台周辺で暮らされていた利用者の方も多く入居されており、地域との関わりを大切に積極的に地域行事等に参加しています。ご家族様や来訪者の面会時間の制限をせず、気軽に来ていただけるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は開設して1年10か月が経過したところである。周辺地域は、「ほたるまつり」が開催され自然に囲まれて季節の移り変わりを満喫できる。利用者は地元出身者が多く、自治会の行事に積極的に参加して住民と交流を深めている。職員は、ゆったりとした家庭的な雰囲気のある事業所の中で「利用者の笑顔を増やしたい、グループホームだからできることを積極的に取り組み業務に活かしていきたい。」と意欲を持って利用者本位のケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームいたい

(ユニット名) ほのか

記入者(管理者)  
氏名 木下 美絵

評価完了日 平成 27 年 11 月 16 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所理念は掲げているが、職員の入れ替わり等もあり、全体での全体での共有はできていない。今回、自己評価することで、意識した職員もいる。	
			(外部評価) 開設時に管理者と職員で話し合い「その人が自分らしく輝くために」という理念を作成している。職員の入れ替わりがあり、理念を共有して実践につなげていくまでには至っていない。管理者は現在の職員で話し合い、自分たちの言葉で実現可能な内容に見直したいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所理念は掲げているが、職員の入れ替わり等もあり、全体での全体での共有はできていない。今回、自己評価することで、意識した職員もいる。	
			(外部評価) 自治会に加入し地域の行事等の情報を得ている。ほたるまつり、盆踊り、地藏祭り、バレーボール大会、運動会、忘年会と自治会活動が活発に行われており、できるだけ参加して地域との交流を深めている。利用者は幼稚園児と七夕飾りを作りそのあと一緒に散歩を楽しみ、小学生は紙芝居、歌、劇を披露し交流している。地域住民は事業所で開催する運営推進会議や年末の餅つき大会に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議の議題としても取り上げ、これから取り組みが行えるよう計画。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議での意見は、できるだけ取り入れていけるよう努力しているが、まだ、状況報告等できていない。	
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、公民館長、自治会長、民生委員、保育園園長、家族、介護保険課職員、地域包括支援センター職員、他グループホーム職員等の参加を得て開催している。事業所の利用状況や活動内容を報告し感染予防・年間議題について・事業所の力を活かした地域貢献等の議題を挙げて話し合っている。また、参加できなかった家族には、面会時に会議内容を報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には参加して頂き、実績等報告しているが、協力関係を築く取り組みはできていない。	
			(外部評価) 市・地域包括支援センター職員は、毎回運営推進会議に参加して情報交換している。今後は地域包括支援センター職員に地域グループホーム連絡会に参加してもらい、連携を図りたいと考えている。生活福祉課職員は定期的な訪問があり、利用者の生活状況を報告し協力関係ができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理解しているという職員も多いが、実際ケアには繋がらず、研修等の機会を設ける必要がある。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについて研修を行い全職員の理解を深めている。外に出ようとする利用者には、一緒に歩いて気分転換を図り無理のない対応に努めている。来年度も法人で身体拘束をしないケアについて研修をする予定があり、今後もさらに勉強会を重ね身体拘束をしないケアに努めていく考えである。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の研修等の学ぶ機会がまだ作れておらず、今後設ける必要がある。理解しているという職員も多いが虐待に繋がりそうな場面もあり、注意していく必要がある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等行えておらず、学ぶ機会を設けられていない。現在、制度を利用されておられる方は、関係者と話し合いを行えているが、個々の必要性までは話し合えていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が、行っている為、職員までは浸透していない。今後、職員会議や研修等の機会を利用し内容等の説明を行う予定。契約の際、理解・納得が得られる様努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族等から意見要望を傾聴するよう努めているが、意見要望が少ないため、外部へ表せるような工夫をする必要がある。	
			(外部評価) 利用者の意見や要望は日々の関わりの中で聞き取り把握している。家族からは運営推進会議に参加してもらい意見を聞いたり、面会時に声をかけて利用状況を報告し意見を聞いている。平成27年1月には家族会を開催し、意見交換や「認知症グループホームについて」の勉強会を実施し理解を図っている。出された意見は口頭で報告したり連絡ノートに記録し職員間で共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 前回の評価でユニットにリーダーを置くようアドバイスを頂いたが、職員の入れ替わり等で、リーダーを置けず改善できていない。しかし、職員の意見や提案を聞くよう努めている。	
			(外部評価) 月に1回、職員会を開催し管理者から業務連絡を行い、職員からの意見を聞いている。また日々の業務の中で意見や要望が出ることも多く、その都度話し合い対応している。法人研修を毎月実施し職員は自主的に参加している。外部研修について情報提供し、参加を勧め職員のレベルアップを図っている。職員は年に2回自己評価を行い、合わせて管理者と個人面談を行い話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 今年度、給与水準の見直しを行い向上心が持てるよう整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内研修・事業所内研修を行い学ぶ機会を設けている。外部研修にも参加できるよう、環境を整えていく必要がある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 伊台地区でのネットワーク作りを始めたが、管理者のみの参加で、職員が参加できる環境が整っていない。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前に事前訪問するよう努め、要望や意向について伺うよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前に事前訪問するよう努め、要望や意向について何うよう努めサービスに繋がるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人様、ご家族様の意向要望に耳を傾け、他のサービス利用の提案ができるように他事業所との連携につとめている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 1年目より認識できている職員も増えており、今後も関係性が築いていけるよう努める。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 共に支えていけるような関係づくりに努めているが、支援される一方に思っておられるご家族様も多い為共に支えられる様な支援を構築していきたい。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方との関係は途切れないよう努めているが、馴染みの場所に出かけたりできていない為、支援していきたい。	
			(外部評価) 馴染みの関係は入居時に利用者・家族より聞き取り把握している。知人の面会時はゆっくり話ができるように気を配り、行事で外出した際には地元の人と話をし交流している。利用者の要望で理容師等に来てもらったり、通い馴染れた近くの理容店などに行くなど、家族の協力により馴染みの場所へ出かけている。また、馴染みの人との関係が継続できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係性や利用者の性格等の把握に努め、利用者同士がかかわりあえるよう支援しているが支えあいには、まだまだ繋がっていない。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても必要に応じて、経過をフォローできるように努めているが、事業所から積極的な関わりはできていない。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの希望、意向の把握に日々努めているが本人本位に検討できていない部分もある。	
			(外部評価) 日々の関わりの中で利用者からふと出たことばを記録し職員間で共有している。自分の意思を伝えられない利用者は、日々の様子や利用者からの合図により判断するなど思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にアセスメントを取り、入居後もご家族様から情報収集し把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の利用者様の様子や現状の把握に努め、変化がある時は、申し送り等で情報共有している。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族様の意向要望は取り入れているが、関係機関等を含めたカンファレンスは開催できておらず、今後できるよう環境を整えていきたい。	
			(外部評価) 介護計画は利用者・家族の思いや意向を聞き取り、管理者と介護支援専門員で作成している。3か月に1回職員から利用者の様子を聞いたり記録を確認しモニタリングを行い、介護計画を見直している。	職員は、介護計画に沿ったサービス内容を把握して実践することが大切である。また、サービス実施記録がわかりにくいため、書式を工夫して日々の記録やサービス実施状況を明確にしモニタリングに連動するとともに、介護計画に反映できる取組みを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録にできるだけ記入し職員間で共有できるようにしており、介護計画に反映できるようつとめている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) できるだけ柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資源が利用できるように地域の方に事業所を知ってもらえる取組みをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関はあるが、利用者やご家族の希望で かかりつけ医の選択をしていただいている。 かかりつけ医と情報交換できるよう努めている。	
			(外部評価) 入居時に話し合い在宅医を継続する利用者は家族が同 行して受診している。受診時は日常のバイタルや身体 状況を主治医宛に提供し、診療後は情報を共有し連携 を図っている。協力医がかかりつけ医の利用者は、月 に2回訪問診療を受けて健康管理を行っている。ま た、必要に応じて歯科医の往診を受けるなど適切な医 療を受けることができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 情報交換や気づき等報告、相談し、利用者の方の 異常の早期発見や適切な受診ができるよう努めてい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院やかかりつけ医と情報交換しながら、利用者様が 治療や早期退院できるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 一部ではあるが、ご家族様やかかりつけ医等と話し合 いを行い、方針の共有に努めているも全員ではない 為、今後全員の利用者様との話し合いの場ができるよ う支援していきたい。	
			(外部評価) 看取りについては、「重度化した場合の対応に係る指 針」を作成し支援に取り組んでいる。利用者や家族の 要望や医師からの情報を聞きながら、関係者と連携を 図り対応している。また、看取りについての研修会に 参加したり、職員間で勉強会を重ねるなど利用者や家 族の要望に沿って安心して最期を迎えられるよう支援し ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的には行えておらず、実践力にはまだまだ繋がっていない。実践力を身につけられる様にしていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の防災計画を地域の方と一緒に取り組んでいる。事業所でも年2回防災訓練を行っているも、職員全員が身につけているわけではない為、防災についての話し合いや訓練を行っていく必要がある。  (外部評価) 日中と夜間を想定し、地域住民の参加により年2回防災訓練を実施しており、その内1回は消防署立会いによる訓練で消防士のアドバイスをもらっている。また、地域防災計画を作成する会議に事業所からも参加しており、事業所としてできることや地域に協力してほしいこと、事業所は耐震構造のため避難所として地域住民の受け入れが可能であることを出席者に伝え、地域との協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けて対応している。  (外部評価) トイレ誘導時や入浴時は、さりげない声かけをし、引継ぎは名前を上げないで居室番号で話し合うなど、羞恥心に配慮した対応に気を付けている。また、一人ひとりの人格を尊重した声かけを行うなどプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が思いや希望を表した時は特に気を付けて自己決定できるよう働きかけてはいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切にしているが、利用者の希望にそって支援しているとはいいがたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 服を選んでもらったりしているが、その人らしいおしゃれまではでき出来てないように思う。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備・片づけ等一緒にできていないが、食事が楽しい雰囲気になるよう心掛けている。	
			(外部評価) 献立及び食材は業者に委託しており、職員はご飯を炊き献立に合わせて調理を行っている。また、利用者の好みやアレルギーなどを家族から聞きとり職員が調整している。特別メニューは少ないが、利用者の好みに合わせておやつを手作りし、職員も同じテーブルで話をしながらゆっくり食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者様の状態に合わせて栄養や水分量が確保できるよう工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアを拒否される利用者もおり全員ではないが、利用者の状態に合わせて口腔ケアを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) おむつの使用を減らしていく事は難しが排泄のパターン、利用者からの排泄の訴えにて自立にむけた支援を行っている。	
			(外部評価) タイムスケジュール表に水分、排尿、排便を記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握しており、それに合わせての声かけを行うなどトイレでの排泄支援ができている。また、便秘については腹部マッサージなどを丁寧に行い自然な排便を促している。また場合によっては、医師の指示のもと下剤を使用することもあるが、オムツ使用の利用者はトイレ誘導することで尿意が戻り、トイレでの排泄が可能になった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 薬に頼りきっている部分がある為、飲食物の工夫や運動を取り入れる必要がある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの希望は伺えているが浴槽に保温機能が無く井戸水で温水になる恐れがあるため、時間帯を限定せざるおえない状況である。	
			(外部評価) 浴室は、身体状況に合わせて安全に入浴することができるよう機械浴も設置している。入浴は3日に1回を目安に実施しているが、希望により毎日入浴することもできる。また、入浴剤を使用するなど工夫しゆっくり入浴できるよう支援している。お風呂の苦手な利用者は声かけのタイミングを考えたり職員が交替で声かけをするなど、無理強いすることなく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望にできるだけ添えるよう、休憩時間や就寝時間を状況に応じて対応しているが、時に待たせてしまう場合もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりが使用している薬の全ての把握はできておらず、薬情のファイルを作り服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日ではないが一人ひとりの役割、楽しみ、気分転換が出来るよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望に合わせた外出支援は、あまりできていないが、ご家族様と外出されたりする場合安心して外出できるようサポートを行っている。	
			(外部評価) 時候や天気に合わせて事業所の周りを散歩したり、地域の行事に合わせて外出する機会を作っている。また、本部の「なないろカフェ」に出かけたり近所のお寺の花見に出かけ楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の要望もあり、こちらで管理している。外出時お金を使う時には所持し使えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人自ら電話をされてはいるが、手紙を書かれている利用者もいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用空間の中に、それぞれの場所に不快や混乱をまねくような刺激がないように心掛けている。また、生活感や季節感の取り入れるよう工夫している。	
			(外部評価) リビングは、天井が高く天窓から日差しが入り明るく広々としている。中央に調理場があるため、職員は全体を見守ることができる。テーブルを2卓置き、気の合う利用者同士の座席や好みの席の指定に配慮している。また、季節の物や利用者の作品を飾り、ユニット間の通路を開放し自由に行き来できるようになっており、利用者はソファでゆっくりくつろぎ穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間の中で、独りになれる場所や利用者同士で会話など思い思いに過ごせるよう工夫をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人が居心地よく過ごせるよう本人や家族と相談しながら配置や使い慣れたもの・好みのものを使用し工夫している。	
			(外部評価) 居室は、ベッドとエアコンが常備され、窓は障子で和風の空間となっている。また、使い慣れた布団、タンス、ハンガーラック、衣装ケースを持ち込み利用者の好みに合わせて配置し、落ち着いた雰囲気でも過ごすことができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者一人ひとりが自立した生活が送れるようになるべく見守り・声掛けで対応しその後も危険がとまなわれない様に心掛けている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890101011
法人名	社会福祉法人 泰斗福祉会
事業所名	グループホーム いたい
所在地	松山市下伊台町1382番1
自己評価作成日	平成 26 年 11 月 16 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 12 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋で2ユニット併設の為、廊下1本で、自由に隣のユニットへ行き来することができ、利用者同士の交流を深めています。伊台周辺で暮らされていた利用者の方も多く入居されており、地域との関わりを大切に積極的に地域行事等に参加しています。ご家族様や来訪者の面会時間を制限せず、気軽に来ていただけるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は開設して1年10か月が経過したところである。周辺地域は、「ほたるまつり」が開催され自然に囲まれて季節の移り変わりを満喫できる。利用者は地元出身者が多く、自治会の行事に積極的に参加して住民と交流を深めている。職員は、ゆったりとした家庭的な雰囲気のある事業所の中で「利用者の笑顔を増やしたい、グループホームだからできることを積極的に取り組み業務に活かしていきたい。」と意欲を持って利用者本位のケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームいたい

(ユニット名) だんだん

記入者(管理者)  
氏名 木下美絵

評価完了日 平成 27 年 11 月 16 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所理念は掲げているが、職員の入れ替わり等もあり、全体での全体での共有はできていない。今回、自己評価することで、意識した職員もいる。</p> <p>(外部評価) 開設時に管理者と職員で話し合い「その人が自分らしく輝くために」という理念を作成している。職員の入れ替わりがあり、理念を共有して実践につなげていくまでには至っていない。管理者は現在の職員で話し合い、自分たちの言葉で実現可能な内容に見直したいと考えている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 事業所理念は掲げているが、職員の入れ替わり等もあり、全体での全体での共有はできていない。今回、自己評価することで、意識した職員もいる。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し地域の行事等の情報を得ている。ほたるまつり、盆踊り、地藏祭り、バレーボール大会、運動会、忘年会と自治会活動が活発に行われており、できるだけ参加して地域との交流を深めている。利用者は幼稚園児と七夕飾りを作りそのあと一緒に散歩を楽しみ、小学生は紙芝居、歌、劇を披露し交流している。地域住民は事業所で開催する運営推進会議や年末の餅つき大会に参加している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の議題としても取り上げ、これから取り組みが行えるよう計画。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議での意見は、できるだけ取り入れていけるよう努力しているが、まだ、状況報告等できていない。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、公民館長、自治会長、民生委員、保育園園長、家族、介護保険課職員、地域包括支援センター職員、他グループホーム職員等の参加を得て開催している。事業所の利用状況や活動内容を報告し感染予防・年間議題について・事業所の力を活かした地域貢献等の議題を挙げて話し合っている。また、参加できなかった家族には、面会時に会議内容を報告している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議には参加して頂き、実績等報告しているが、協力関係を築く取り組みはできていない。</p> <p>(外部評価) 市・地域包括支援センター職員は、毎回運営推進会議に参加して情報交換している。今後は地域包括支援センター職員に地域グループホーム連絡会に参加してもらい、連携を図りたいと考えている。生活福祉課職員は定期的な訪問があり、利用者の生活状況を報告し協力関係ができています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 理解しているという職員も多いが、実際ケアには繋がらず、研修等の機会を設ける必要がある。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしないケアについて研修を行い全職員の理解を深めている。外に出ようとする利用者には、一緒に歩いて気分転換を図り無理のない対応に努めている。来年度も法人で身体拘束をしないケアについて研修をする予定があり、今後もさらに勉強会を重ね身体拘束をしないケアに努めていく考えである。</p>	<p>法人内・外の研修に参加し身体拘束について理解を深めているが、職員の入れ替わりもあり統一した支援までには至っていない。身体拘束について資料を配布したり具体的な事例をあげて話し合うなど、さらに勉強会を重ね職員全員が理解して身体拘束をしないケアの取組みに期待する。</p>

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の研修等の学ぶ機会がまだ作れておらず、今後設ける必要がある。理解しているという職員も多いが虐待に繋がりそうな場面もあり、注意していく必要がある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等行えておらず、学ぶ機会を設けられていない。現在、制度を利用されておられる方は、関係者と話し合いを行えているが、個々の必要性までは話し合えていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が、行っている為、職員までは浸透していない。 今後、職員会議や研修等の機会を利用し内容等の説明を行う予定。契約の際、理解・納得が得られる様努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族等から意見要望を傾聴するよう努めているが、意見要望が少ないため、外部へ表せるような工夫をする必要がある。  (外部評価) 利用者の意見や要望は日々の関わりの中で聞き取り把握している。家族からは運営推進会議に参加してもらい意見を聞いたり、面会時に声をかけて利用状況を報告し意見を聞いている。平成27年1月には家族会を開催し、意見交換や「認知症グループホームについて」の勉強会を実施し理解を図っている。出された意見は口頭で報告したり連絡ノートに記録し職員間で共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 前回の評価でユニットにリーダーを置くようアドバイスを頂いたが、職員の入れ替わり等で、リーダーを置けず改善できていない。しかし、職員の意見や提案を聞くよう努めている。	
			(外部評価) 月に1回、職員会を開催し管理者から業務連絡を行い、職員からの意見を聞いている。また日々の業務の中で意見や要望が出ることも多く、その都度話し合い対応している。法人研修を毎月実施し職員は自主的に参加している。外部研修について情報提供し、参加を勧め職員のレベルアップを図っている。職員は年に2回自己評価を行い、合わせて管理者と個人面談を行い話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 今年度、給与水準の見直しを行い向上心が持てるよう整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内研修・事業所内研修を行い学ぶ機会を設けている。外部研修にも参加できるよう、環境を整えていく必要がある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 伊台地区でのネットワーク作りを始めたが、管理者のみの参加で、職員が参加できる環境が整っていない。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前に事前訪問するよう努め、要望や意向について伺うよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前に事前訪問するよう努め、要望や意向について伺うよう努めサービスに繋がるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人様、ご家族様の意向要望に耳を傾け、他のサービス利用の提案ができるように他事業所との連携につとめている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 1年目より認識できている職員も増えており、今後も関係性が築いていけるよう努める。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 共に支えていけるような関係づくりに努めているが、支援される一方に思っておられるご家族様も多い為共に支えられる様な支援を構築していきたい。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方との関係は途切れないよう努めているが、馴染みの場所に出かけたりできていない為、支援していきたい。	
			(外部評価) 馴染みの関係は入居時に利用者・家族より聞き取り把握している。知人の面会時はゆっくり話ができるように気を配り、行事で外出した際には地元の人と話をし交流している。利用者の要望で理容師等に来てもらったり、通い馴染れた近くの理容店などに行くなど、家族の協力により馴染みの場所へ出かけている。また、馴染みの人との関係が継続できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係性や利用者の性格等の把握に努め、利用者同士がかかわりあえるよう支援しているが支えあいには、まだまだ繋がっていない。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても必要に応じて、経過をフォローできるように努めているが、事業所から積極的な関わりはできていない。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向の把握には努めているが検討まで行えていない。	
			(外部評価) 日々の関わりの中で利用者からふと出たことばを記録し職員間で共有している。自分の意思を伝えられない利用者は、日々の様子や利用者からの合図により判断するなど思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントシートや利用者との会話の中から知り把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状にタイムスケジュール・支援記録などで把握している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族には意向を聞いているが必要な関係機関との話し合いは行えておらず今後、行っていきたいと考えている。	
			(外部評価) 介護計画は利用者・家族の思いや意向を聞き取り、管理者と介護支援専門員で作成している。3か月に1回職員から利用者の様子を聞いたり記録を確認しモニタリングを行い、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 支援記録や全体ノートを活用し職員間で共有しているが実践や介護計画の見直しには活かせていない。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) できるだけ柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資源が利用できるように地域の方に事業所を知ってもらえる取組みをしている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関はあるが、利用者やご家族の希望で かかりつけ医の選択をさせていただいている。 かかりつけ医と情報交換できるよう努めている。	
			(外部評価) 入居時に話し合い在宅医を継続する利用者は家族が同 行して受診している。受診時は日常のバイタルや身体 状況を主治医宛に提供し、診療後は情報を共有し連携 を図っている。協力医がかかりつけ医の利用者は、月 に2回訪問診療を受けて健康管理を行っている。ま た、必要に応じて歯科医の往診を受けるなど適切な医 療を受けることができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 情報交換や気づき等報告、相談し、利用者の方の 異常の早期発見や適切な受診ができるよう努めてい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院やかかりつけ医と情報交換しながら、利用者様が 治療や早期退院できるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 一部ではあるが、ご家族様やかかりつけ医等と話し合 いを行い、方針の共有に努めているも全員ではない 為、今後全員の利用者様との話し合いの場ができるよ う支援していきたい。	
			(外部評価) 看取りについては、「重度化した場合の対応に係る指 針」を作成し支援に取り組んでいる。利用者や家族の 要望や医師からの情報を聞きながら、関係者と連携を 図り対応している。また、看取りについての研修会に 参加したり、職員間で勉強会を重ねるなど利用者や家 族の要望に沿って安心して最期を迎えられるよう支援し ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的には行えておらず、実践力にはまだまだ繋がっていない。実践力を身につけられる様にしていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の防災計画を地域の方と一緒に取り組んでいる。事業所でも年2回防災訓練を行っているも、職員全員が身につけているわけではない為、防災についての話し合いや訓練を行っていく必要がある。  (外部評価) 日中と夜間を想定し、地域住民の参加により年2回防災訓練を実施しており、その内1回は消防署立会いによる訓練で消防士のアドバイスをもらっている。また、地域防災計画を作成する会議に事業所からも参加しており、事業所としてできることや地域に協力してほしいこと、事業所は耐震構造のため避難所として地域住民の受け入れが可能であることを出席者に伝え、地域との協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けて対応している。  (外部評価) トイレ誘導時や入浴時は、さりげない声かけをし、引継ぎは名前を上げないで居室番号で話し合うなど、羞恥心に配慮した対応に気を付けている。また、一人ひとりの人格を尊重した声かけを行うなどプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が思いや希望を表した時は特に気を付けて自己決定できるよう働きかけてはいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切にしているが、利用者の希望にそって支援しているとはいいがたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 社内研修を行い基礎から学びなおす事ができ更衣時・整容時に気を付けながら支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの好みの把握はしているが、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをする職員は決まっている。	
			(外部評価) 献立及び食材は業者に委託しており、職員はご飯を炊き献立に合わせて調理を行っている。また、利用者の好みやアレルギーなどを家族から聞きとり職員が調整している。特別メニューは少ないが、利用者の好みに合わせておやつを手作りし、職員も同じテーブルで話をしながらゆっくり食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食べる量や水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じて口腔ケアの支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) おむつの使用を減らしていく事は難しが排泄のパターン、利用者からの排泄の訴えにて自立にむけた支援を行っている。	
			(外部評価) タイムスケジュール表に水分、排尿、排便を記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握しており、それに合わせての声かけを行うなどトイレでの排泄支援ができている。また、便秘については腹部マッサージなどを丁寧に行い自然な排便を促している。また場合によっては、医師の指示のもと下剤を使用することもあるが、オムツ使用の利用者はトイレ誘導することで尿意が戻り、トイレでの排泄が可能になった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 散歩や軽い運動をし、水分量が少ない利用者には声掛けにて水分補給に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの希望は伺えているが浴槽に保温機能が無く井戸水で温水になる恐れがあるため、時間帯を限定せざるおえない状況である。	
			(外部評価) 浴室は、身体状況に合わせて安全に入浴することができるよう機械浴も設置している。入浴は3日に1回を目安に実施しているが、希望により毎日入浴することもできる。また、入浴剤を使用するなど工夫しゆっくり入浴できるよう支援している。お風呂の苦手な利用者は声かけのタイミングを考えたり職員が交替で声かけをするなど、無理強いすることなく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりが使用している薬の全ての把握はできておらず、薬情のファイルを作り服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日ではないが一人ひとりの役割、楽しみ、気分転換が出来るよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられていないが支援しているよう努めている。家族や地域の人々の協力は出来ていない。	
			(外部評価) 時候や天気に合わせて事業所の周りを散歩したり、地域の行事に合わせて外出する機会を作っている。また、本部の「なないろカフェ」に出かけたり近所のお寺の花見に出かけ楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の要望もあり、こちらで管理している。外出時お金を使う時には所持し使えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人自ら電話をされてはいるが、手紙を書かれている利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用空間の中に、それぞれの場所に不快や混乱をまねくような刺激がないように心掛けている。また、生活感や季節感の取り入れるよう工夫している。	
			(外部評価) リビングは、天井が高く天窓から日差しが入り明るく広々としている。中央に調理場があるため、職員は全体を見守ることができる。テーブルを2卓置き、気の合う利用者同士の座席や好みの席の指定に配慮している。また、季節の物や利用者の作品を飾り、ユニット間の通路を開放し自由に行き来できるようになっており、利用者はソファでゆっくりくつろぎ穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間の中で、独りになれる場所や利用者同士で会話など思い思いに過ごせるよう工夫をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人が居心地よく過ごせるよう本人や家族と相談しながら配置や使い慣れたもの・好みのものを使用し工夫している。	
			(外部評価) 居室は、ベッドとエアコンが常備され、窓は障子で和風の空間となっている。また、使い慣れた布団、タンス、ハンガーラック、衣装ケースを持ち込み利用者の好みに合わせて配置し、落ち着いた雰囲気でも過ごすことができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者一人ひとりが自立した生活が送れるようになるべく見守り・声掛けで対応しその後も危険がとまなわれない様に心掛けている。	